


「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)・重点プロジェクトのさらなる推進<2016(平成 28)年度>について

1. 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) について

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)は、基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)の成果を踏まえ、『宗制』前文にある「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」ことを目的とした活動として、宗門全体において推進されている。

2015(平成 27)年 3 月 13 日には『「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクト』の内容を刷新し策定した。本来総合基本計画については、たびたび内容を変更する性格のものではないが、重点プロジェクト推進期間の最終年度であったことや、専如門主の法統継承、並びに「伝灯奉告法要についての消息」の発布を受け、その内容を見直すこととなった。この総合基本計画では、各方面からの意見を踏まえ、当初十分に周知できていなかった「実践運動」と「重点プロジェクト」の関係性を明確に整理した。また、「総合テーマ」(そっとながなる ホッがつたわる  ~結ぶ絆から、広がるご縁へ~) についての見直しを行い、実践運動の趣旨を簡潔に表す「スローガン」として改め、「結ぶ絆から、広がるご縁へ」へと集約したのである。

重点プロジェクト推進室では、浄土真宗本願寺派総合研究所の協力のもと、冊子『ごえん』をこれまでに 2 冊刊行した。また、2014(平成 26)年度には有楽町朝日ホール(東京)を会場として『シンポジウム ご縁~結ぶ絆から、広がるご縁へ~』を開催したことは、運動推進の大きな力となった。

教区、組、教化団体、一般寺院や個人など各活動主体の取り組みについて、重点プロジェクト推進室ではその情報を収集し、実践事例を「本願寺ホームページ」上において継続的に紹介しており、すでに 100 事例以上を掲載している。2015(平成 27)年 1 月、掲載事例が一定の数に達したことから、『実践事例集』を発行し、集約した情報を発信した。

2. 重点プロジェクトについて

重点プロジェクトは教区・組・教化団体をはじめとする活動主体が、社会への具体的な貢献のため、特に傾注すべき実践目標を、年限を定めて実践するものである。2012(平成 24)年度から 2014(平成 26)年度に亘った前期の重点プロジェクト推進期間が終了し、新たに 2015(平成 27)年度から 2017(平成 29)年度までの 3 か年に亘る推進期間を設定し推進している。

尚、前期推進期間が終了したことを受け、特筆すべき活動に対し奨励の一環として新しく「重点プロジェクト大賞」並びに「実践活動奨励賞」を設けて表彰し、『本願寺新報』『本願寺ホームページ』などで紹介した。受賞した団体には賞状と特別助成金を交付し、今後の活動への支援とする。またこの顕彰を周知し、積極的な活動を奨励することにより、各活動主体が「実践目標」の達成に向け、意欲的に取り組めるようにしたい。

3. 2016（平成28）年度の取り組み

本年度は、「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会・教区委員会・組委員会の各委員が新たに選出され、また教区会議員並びに組長という地方における要職者が改選されるため、改めて実践運動における理念の周知と、一層の活動推進に努める必要がある。

また、宗派における実践運動の一環として、宗門総合振興計画と連動しつつ、山積する現代社会の課題への対応として、シンポジウムの開催や冊子『ごえん』の発刊を予定している。

尚、地方における活動推進に資するため、「教区・特区実践運動推進助成金」「組実践運動推進費」の交付、並びに中央委員会や公聴会の意見を反映し設定した「講師派遣制度」や「組重点プロジェクト推進助成金」などの経済的支援を行っており、本年度もこれらの支援を継続することにより、地方における運動推進の一助としている。

以 上